

第1回 都市強靱化プロジェクト推進会議 議事要旨

【日時】令和4年5月25日（水）16時15分～17時00分

【場所】東京都庁第一本庁舎7階特別会議室

【出席者】知事、副知事、東京都技監、政策企画局長、都市整備局長 ほか

- ・ 様々な災害の脅威に対して、最先端技術を活用しながら、ハードの整備に加え、社会情勢の変化を踏まえたソフト対策にも取り組むことが必要。これらの取組を進め、都民の生活を守り、壊滅的な被害を防ぐ「強靱化された都市・東京」を実現していく必要がある。
- ・ 昨今の環境の変化や新たな知見などにより、経験したことのない危機に直面するリスクが明らかになっている。一日も早く安全・安心な都市を実現するため、これまで以上に迅速に対策を進めていく必要がある。
- ・ 本プロジェクトでは、強靱な都市のあるべき姿を示し、長期的な視点から取り組むべき道筋を明らかにした上で、具体策として様々な施策を盛り込んでいく。
- ・ 強靱化の「靱性」は、レジリエンス、リダンダンシーを指す。ハード整備では、ダメージ減少に加えて、早期回復力をビルトインさせ、それでも対応できない部分はソフト的措置を講じることが重要。
- ・ 今後の検討に当たっては、全体を俯瞰することが必要。例えば、火山灰の降灰は都市インフラなどに広範な被害が出ると言われており、他の災害対策と同様、都民とも問題認識を共有し、関係部署で連携して幅広く対策を準備しなければならない。
- ・ 大規模災害があっても、インターネットに繋がることが都民の生命や財産を守ることを左右する時代であるため、通信環境の整備を危機管理の観点からも進めていきたい。また、スマートフォンを活用した情報伝達の仕組みをつくることも都市の強靱化には大変有効であるなど、デジタルテクノロジーの活用は課題解決の可能性を広げる。
- ・ 今回のプロジェクトでは、これまで進めてきた防災の施策が今後の状況変化に対応できるか確認し、対策を考える機会である。また、庁内の連携について、各局で様々な施策が進められているが、相互に齟齬がないか確認しつつ、連携して取り組むと効果的・効率的な対策になるのではないかと。
- ・ 今後、都が都市強靱化を着実に進めていくためには、都民の理解を得ることが不可欠。我々が取り組んでいる防災対策の重要性を認識してもらうことに加え、都民自らが災害に対して積極的に備えていただけるよう、分かりやすく伝えていくことも重要。
- ・ 様々な危機にも強くしなやかに対応できる都市として、サステナブル・リカバリーの視点での都市づくりに向けた各施策の取組が重要。そのためには、価値観の変化、多様化するライフスタイルにも対応した人中心の空間づくり等も効果的。また、公共空間においては、平時と災害時に使い方を換えられるような都市空間づくりの視点を取り入れるなど、柔軟な発想に基づく検討も必要。
- ・ 新しい視点を取り入れて、既存の取組の見直し、できれば大胆な見直しをお願いしたい。そうすることで、スピードアップ、工期の前倒しや経費の削減につながっていく。